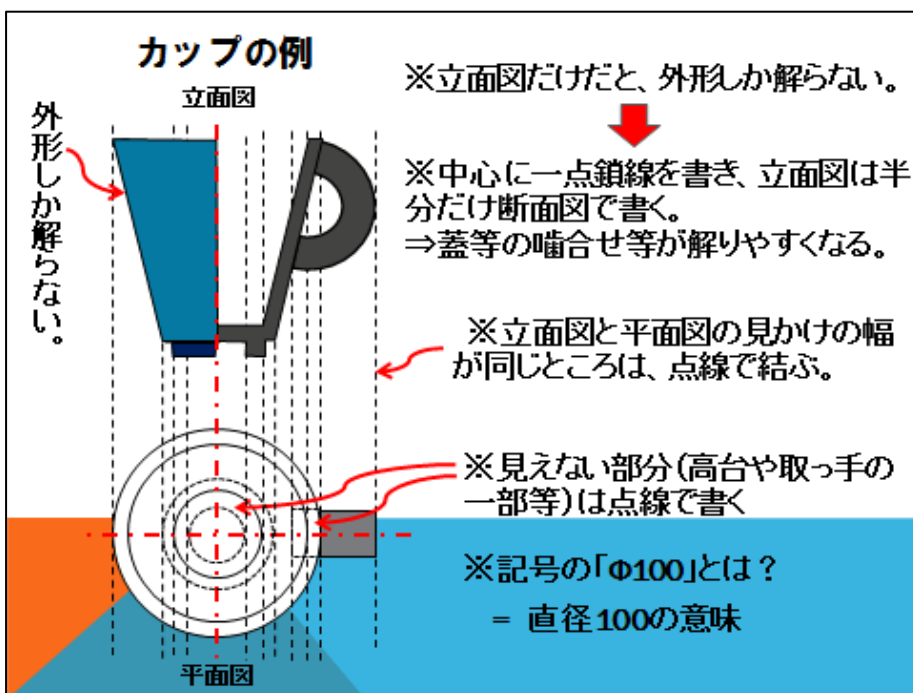
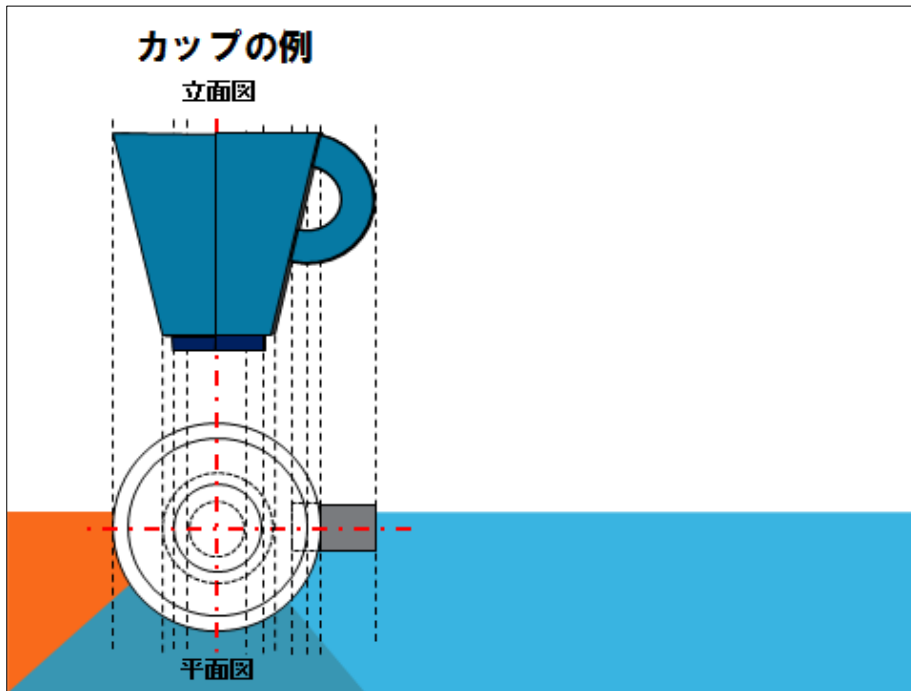




PowerPoint を使用した図面の書き方の説明

千葉県立幕張総合高等学校 芸術科 工芸 教諭 平野 信子

1. カップ&ソーサーのデザインに入る前に、投影図法の勉強をし、簡単な3面図を読み取ったり、書けるようになるように生徒に学んで貰います。(演習問題のプリントや PowerPoint を使用)
2. その後、企画書を基にカップとソーサーのデザインのアイデアスケッチをします。
3. アイデアスケッチを基に2面図(必要に応じて3面図)を書いて貰いますが、下記の「カップの例」は方眼紙に製図する際、事前にポイントを説明する時に使用する PowerPoint の最初と最後の画面です。



最初に、オーソドックスなカップを表示し、設計図は最低、カップとソーサーの立面図(正面から見た図)と平面図(上から見た図)を書き、必要に応じて右側面図を書く事を伝えます。

次に、以下の点について説明します。
①平面図を書くにあたり厚みや蓋等の噛み合わせを解りやすくする為に、半分だけ断面図にする。

②陶土は縮む為、設計図は実物の1~1.5割大きく書く。(実際に作る大ききで書く。)

③見かけの幅が同じ所は点線で結ぶ。

④見えない部分(高台の形や隠れている取っ手の部分等)は点線で書く。

⑤中心は一点鎖線で書く。

⑥寸法の入れ方は工芸の教科書 P16 「マグカップの図面」を参考に書く。(単位mm)

⑦設計図上の厚みは統一して 5mm で書く。

⑧高台の高さは最低 5mm 以上。(釉薬の流れ止めとして必要)

⑨カップとソーサーの高さは基本 150mm 以下。(規格外は要相談)

以上、製図した設計図は、制作時に透明のアクリル板の下に敷いたり、横に立てて大きさや形を確認しながら成形していく時に使用します。